令和３年度 第２回 岡山県地方独立行政法人評価委員会 議事録

１　日　　時　　令和３年７月２日（金）１３：００～１４：４５
２　場　　所　　ピュアリティまきび（岡山市北区下石井）
３　出席委員　　萩原委員長、小田委員、清水委員、秋山専門委員、桑原専門委員
４　議　　事　　（１）公立大学法人岡山県立大学　令和２年度業務実績報告

【要　旨】
・公立大学法人岡山県立大学からの説明後、質疑応答

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
４９頁の収支決算の中で、教員人件費の決算額が当初予算額と比べて５，８００万円の減となっているが、退職や若返りなど、教学体制に支障のない形での減なのか。	教員人件費の減については、教員の定員が埋まっていないということから、結果として減っている。
４４頁の［４３］で、「内部質保証推進会議を設置し、教学マネジメント体制を整備」とあるが、現状、どのように進めているのか。	内部質保証体制については、令和２年４月に「教学マネジメント委員会」を立ち上げ、質保証を検証するところから始めた。その後、機関・教育課程・授業科目レベルで３ポリシーの達成状況を評価するためのアセスメントポリシーを作成し、令和２年１０月までにその確認を行った。その後、現在は組織を「内部質保証推進会議」と改称し、アセスメントポリシーに基づいて内部質保証に向けた取組を推進している。
建築学科への応募がやや少ないが、アドミッションセンターとしての学生募集はどうだったのか。	建築学科への応募が少ない件について、デザイン学部全体の倍率で言えば、令和２年度は２．６倍で令和３年度は３．１倍と増えている。建築学科は令和３年度からできた学科だが、全体の３．１倍の中では低い。原因はまだ解析中だが、同時期にあった岡山大学工学部の入試が影響しているのではないかと考えている。 建築学科は３つの大学にしかない。真庭市とも連携して進めてまいりたい。
７頁の国家試験合格率の中で、社会福祉士の中期計画での目標８０％に対して、実績が６７．５％と落ち込んでいるのはなぜか。	公務員を志望する学生が多く、資格取得を望む学生が少ない。学生も多様性を求めている傾向がある。６７．５％は全国的に見ても高く、問題はないと認識している。今後、解析して、考えてまいりたい。
９頁の地域創生推進士を１７名認定とあるが、もともとの目標数値はあるのか。	初年度から、２８名、２７名、１７名と年々減ってきているが、文部科学省の補助事業が終了し、この指標が重視されなくなっていることと、長期インターンシップの参加が少なく、この講義を受けなければ認定されないということが影響している。令和３年度は、すでに長期インターンシップの履修者が目標値に届いており、上向いてくる見込みである。
１０頁の県内就職率は目標に比べて低いが、入学生の出身地とは関係ないのか。県外出身者は地元に帰り、県内への就職は難しい。単に数値を上げるのは難しいと思うが、いかがか。	教育者の立場としては難しいと考えている。目標としては５０％程度でいいかと思う。県外の学生が県内に残ることと、県内の学生が県外に出ることの差引きが影響している。令和３年度は県内出身者が多く、４年後は期待できる。大学としては、学生に対し、しっかり情報提供し、各自の判断に委ねるしかない。コロナ禍で考え方が変わってきており、今までとは違った傾向を分析しながら検討してまいりたい。

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
他県から魅力ある大学に来てくれて、県内の会社に就職してもらうには、地元企業が魅力をもっともっとつけないといけない。他県から県立大学に来てくれること自体が評価されるのかもしれない。	入学者の県内と県外の比率は７：３、情報工学は１：１、デザインは４：６となっている。
１４頁の［９］、オンライン授業におけるアクティブ・ラーニングの実績が上がっているが、どのような手法で行ったのか。	手法としては、主に小規模クラスで実施されるグループワークやディスカッションに代表される「アクティブ・ラーニングＡ」と、大規模クラスでも実施しやすいクリッカーやミニッツペーパー等の「アクティブ・ラーニングＢ」という分類があり、Ａはオンライン授業の影響で実施率は３２％と落ち込んでいるが、Ｂはオンラインで少しでも学生に積極的に参加してもらおうという努力から６９％の実施率となった。
オンラインでのアクティブ・ラーニングは、主にZOOMでのやり取りがイメージとしてあるが、どのような状況か。	第２クオーターくらいから双方向性のやり取りをしている。「Teams」というアプリにグループを作る機能があり、学生同士のディスカッションや発表などを行っている。このような手法は本学で作成したオンライン授業マニュアルでも紹介しており、今後も増えるよう希望している。
複数のグループがあり、参加者は自グループ、他グループが見えるのか。ディスカッションの中では、教員はあまり介入しないのか。	教員はすべてのグループが把握でき、なるべく学生に自主的にディスカッションさせるようにしているが、話題が逸れたら介入するようにしている。今後は、できるだけ対面授業を増やしてまいりたい。
７頁の［１］で、国家試験の保健師について、大学でも受験者がいると思うが、入れていないのはなぜか。	大学院にしかカリキュラムを設置しておらず、学部では取得することができない。５名ほど修了し、合格率は１００％を維持している。
教員が学生の成績評価をするのは、オンラインでは難しかったのではないか。情報やデザインなど、学部によってやりやすいところ、やりにくいところがあると思うが、どうか。	学部によってオンラインと対面の比率に差がある。保健福祉学部では、コロナ禍の前から看護学科を中心にオンラインで授業を行うシステムができており、コロナ禍でのオンラインでテクニックが上がった。情報工学部は元々専門だ。デザイン学部は対面しかできない授業が多かった。コロナによる入構禁止時には全てオンラインで、コロナが少し収まった時には許可制で対面をやっている。実験・実習は対面でしかできないが、病院実習等は学内の授業での代替にせざるを得ず、質の保証が難しい。学生もオンラインを好む人もいれば、対面を好む人もいる。対面とオンラインを上手に組み合わせるハイブリット型がいいと考えている。
最近は一般の方がオンライン慣れしてきたので、リカレント教育もオンラインで開講すればよいのではないか。	「吉備の杜」の一環でリカレント教育を考えているが、企業の方々が参加しやすいようオンラインで、特に企業の若手の方が興味を持ってくれる講座を作り、こうしたレベルアップにより、学生の県内定着率も上げていけるよう努力してまいりたい。
企業の立場からもそうだが、教育や広義のコミュニケーションにおいても、今後、手軽で便利なウェブと、わざわざ対面するリアルの両方を使っていくということを実感している。多様な方法を充実させてほしい。	

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
教員や学生のワクチン接種の状況はどうなっているのか。	学生や教職員を対象に職域接種の申請を行ったところであるが、まだ国からの許可が下りない。計画としては、夏休みの８月と９月に岡山赤十字病院の協力を得て実施する予定である。
ウェブの普及で便利さが再認識されたが、オンラインを活用しつつ、リアルにお客様とどう接するか。インフルエンザの一つとしてコロナが収まってくれば、リアルな場面をぜひ復活させて、オンラインとうまく両立させてほしい。そういった意味で各大学の企画力の競争になるだろう。アフターコロナの教育のやり方はとても大事だ。頑張ってほしい。	
２１頁で、退学者が学部１４人、大学院７人となっている。学生はこの１年も相当苦しかったはずだ。学生に対してどのようなケアをしたのか。	経済面では、学生へポケットWi-Fiの貸し出しを行い、精神面では、学生アンケートを行い、何に困っているのか調査したところ、課題が多すぎて困っているという回答があり、教員に対し、課題の量について工夫するよう通知した。インスタントラーメンや米の配布、授業料の減免も行った。今後も、経済面、生活面、教育上の支援のほか、アドバイザー制度も最大限活用していきたい。
退学・休学は、令和３年度はどうなりそうか。	令和２年度の退学率は１．１％と、前年と比べて減少している。
全国的にも退学・休学が減っている。辞めるまでの理由がないということもあると思う。高等教育修学支援で救われており、なんとかしのいでいるようだ。	
授業料が払えない場合は、新しい国の支援制度がある。心配なことは、労働力としての学生が減り、学生の飲食や消費が減ることから、総社の町自体がさびしくなるのではないか。	
授業料減免83,763千円とあるが、収入面での影響はないのか。	国からの支援で、コロナ臨時交付金が財源として充てられたので、影響はない。
社会福祉士の合格率については、「記念受験」をしている関係で下げる要因になっていると思われる。受験資格があっても、モチベーションの低い人は受けさせないなど、目標達成に向けて一工夫がいると思うが、いかがか。	考えていく必要がある。あと４年間、事情も変わっていく中で真剣に考えてまいりたい。
共通教育に関して、共通教育科目の専門の先生、組織はどのようになっているのか。	専任の教員はいない。どこかの部に属しており、兼務でやっている。担当科目によって共通教育と専門教育の比重は変わる。
アセスメントポリシーの検証はどのようにするのか。	学部別外部評価において各学部の教育に含めて検証している。
令和元年度はTOEICの点数が入学時よりも大きく下がっていたが、令和２年度は上がったということで、何か取組をされたのか。	TOEICの点数（300点）を単位認定の要件に設定した。ただし、学生にとって英語を楽しむ、モチベーションを上げる取組も必要だと考えており、昨年度はコロナで海外研修はできなかったが、オンラインでの取組を始めている。
もともとレベルの高い学生の点数がやや下がったということで、それらの学生向けの方策はあるのか。	令和３年度からTOEIC550点以上でモチベーションの高い学生向けのアドバンスドクラスを開講している。
レベルの高い人を増やせば、全体として上がると思う。	
そういうクラスの存在が良い刺激になる。	

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
２２頁、障がいを持った学生はいるのか。どう対応しているのか。	車椅子の学生が２人通学しているが、ＪＲ服部駅での乗降手伝い、トイレ介助など、支障なくできている。スロープ設置など学内のバリアフリー化に向けてハード整備のほか、聴力障害の学生には、補聴器の対応も行っている。